第 1 回 委員会 における 主な 意見 及び 対応

第1回委員会における主な意見及び対応

目標		発言委員	委員の発言	各部署の対応
1	1	河野委員	・CO2の増えている理由を総括のところに書く必要があると思う。それを受けて1-2で細かな内容を記すことにしてはどうか。	評価書の「目標達成度合いの測定結果」欄に、温室効果ガスの排出の増減の状況とその理由を記載した。
1	1	山本委員	・温暖化対策を国民の要望に応える形でさらに進めてほしい。 ・施策ごとに評価しているが、全体としてどうなのかが見えない。グローバルなプラネタリーバウンダリーに対して、日本の環境政策はどのような位置づけにあるか、ぜひ検討してほしい。	「プラネタリーバウンダリー」の考え方を取り入れるかどうかについては、環境省の政策評価体系全体に関わる問題であり、今後の検討課題と考えている。
1	1	三橋委員	・測定指標の達成「-」はどのような意味か。仮に達成が「×」だとしても、その理由について広く議論してほしい。	今後、約束草案を踏まえた地球温暖化対策計画を策定し、目標達成に向けた対策・施策を計画に位置付けた上で進捗点検を行い、当該目標値の達成度合いを評価していくこととしたい。このため、現時点では「-」とすることとしたい。
1	1	三橋委員	・2030年については政府目標があって、2020年についてはないのは、読む側にとっては不自然である。参考値はあるはずで、それを書くのが親切ではないか。それを環境省の政策評価の中を書くことはほかの省庁から批判があって書けないのか。	評価書の「測定指標」欄に、平成32年度の目標値と、当該目標値の性格を追記した。
1	1	崎田委員	・COPの話し合いで、世界の目標値に対してどう貢献するかということは、こういう政策の中に入っていなかったのか、それは外務省に任せているのか。	・世界の目標値についてどう貢献するかについては、評価書1-1「目標達成度合いの測定結果」の欄で、以下のように追記。 「○また、世界全体での目標を含む2020年以降の国際枠組みについては本年末のCOP21に向けて現在交渉中であり、我が国としてはこれまで、各国による緩和に関する定量化可能な約束草案の提出や約束草案の達成を意図した対策措置の実施、約束草案の実施状況を報告し、レビューを受けることについて法的拘束力のある義務を負うべきと主張しているところ。実効性があり、かつ透明性の高い枠組みにすべく今後も国際交渉を進めていく。」

目標		発言委員	委員の発言	各部署の対応
1	2	崎田委員	・国民運動の盛り上がりの必要性が強く言われているが、言及がない。何かコメントがあってもいいのではないか。	国民運動の推進について、施策の分析部分に追記。
1	2	百瀬委員	・産業界にはピークカットを指示し、家庭には冷暖房を切ってショッピングセンターに行ってくださいと言うが、その時間帯はピークカットタイムなので、この矛盾に業界は悩んでいる。数字の積み重ねの際には、産業界の事情、国民の求めているものについても、どこかに記してほしい。	国民運動の推進について、施策の分析部分に追記。 (ご指摘を踏まえ、今後の政策に反映させていくよう努める。)
1	4	井村委員	・不完全なものについては次の方向性を書いて、次に確実にやるのが大事だと思う。現状において物足りないところはあるが、意識して取り組む姿勢を示しているので、以前に比べ改善されたと思う。	不完全なものについては確実に達成できるよう、引き続き取り組んでいく。
1	4	三橋委員	・COP21での二国間クレジットの評価についてどうお考えか。そうでないと、16か国でクレジットをやっても意味がない感じがする。	先般提出した約束草案において二国間クレジット制度(JCM)は、「温室効果ガス削減目標積み上げの基礎としていないが、日本として獲得した排出削減・吸収量を我が国の削減として適切にカウントする。」としている。日本は適切なカウントルール構築を目指し、市場メカニズムに関するUNFCCC交渉に建設的に関与している。なお、これまでに提出された約束草案において、先進国及び途上国を含む多くの国が市場メカニズムの活用に関与していることから、COP21で議論される新たな国際枠組みにおいて市場メカニズムの活用が否定される状況は想定しにくいと考えている。

目標		発言委員	委員の発言	各部署の対応
3	2	井村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症予防サイトの閲覧数だけでなく、熱中症で搬送される数もあるはずなので、それは環境省の所管ではないかもしれないが、ヒートアイランドと気候変動の関係で何か表現できないか。 ・45ページの環境保健部の目標でも熱中症に関して出てくる。部局は違うかもしれないが、うまくヒートアイランド、気候変動、熱中症をあわせて何か改善できないか。PDCAでやればいいので、来年度検討したらどうか。 	<p>今年度は、自治体等に対して、暑さ指数の熱中症予防への活用実績の調査、及び暑さ指数の変化と熱中症搬送者数の変化の関連の調査を行う。それを踏まえ来年度に適切な測定指標への変更を検討する。</p> <p>なお、熱中症に関連する記述が、目標3-2「大気生活環境の保全」と目標7-4「環境保健に関する調査研究」に記載されていることについては、相互参照できるように記述を追加することとしたい。</p>
3	2	崎田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症予防の数値目標の作り方はホームページの件数が増えると○になっているが、世の中の状況は急激に変化している。それを考慮して、もう少し明確な目標、施策項目を入れてはどうか。 	<p>今年度は、自治体等に対して、暑さ指数の熱中症予防への活用実績の調査、及び暑さ指数の変化と熱中症搬送者数の変化の関連の調査を行う。それを踏まえ来年度に適切な測定指標への変更を検討する。</p>
3	3	藤井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・硝酸性窒素、亜硝酸性窒素のところ、以前は地域の活動と国民活動も含めて農薬の問題をやっていたのに、最近では改善されていないにもかかわらず、話題に上がってこない。それでは地域の課題が見えないのではないか。 	<p>「次期目標等への反映の方向性」において、下記のように修正し、地域での具体的な取組を記載。</p> <p>○地下水については、特に硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の環境基準達成率の向上のため、水循環基本計画に基づき、地域における取組の推進のために必要な情報を取りまとめたガイドライン策定等の検討を進める。</p>
3	3	鷺谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・達成率が十分でないことが続いている。今まで通りの施策を進めても目標の達成には近づけそうもない。どういふ施策を組み合わせることが鍵になるかを把握することの必要性にも触れてほしい。 	<p>「次期目標等への反映の方向性」について、以下のように修正。</p> <p>○今後も引き続き、水質汚濁の現状を把握する。また、環境基準達成率等の向上のため各種施策を推進するとともに、特に湖沼や閉鎖性海域については水環境の改善に効果的な施策の連携について検討する。</p>

3	3	崎田委員	<p>・オリンピックに向けて、東京の水辺環境に対する危機意識が出ている。解決に向けてのノウハウを全国に生かせるような戦略が必要ではないか。</p>	<p>・27年度から3か年計画で、オリンピック東京大会を契機に、東京湾奥部をモデル海域としてシミュレーションモデル計算、実証試験を実施することとしている。</p> <p>・本事業により、東京湾の各エリアの特性に適する効率的・効果的な環境改善技術の提案に向けた検討を行うとともに、結果を全国の自治体・関係機関に発信し、全国の沿岸域における環境改善の取組促進を図ることとしている。</p>
3	6	井村委員	<p>・全体に記述が一般的ではない。あまりデータもないし、測定結果も、次期目標等等への反映の方向性も、書き方が粗すぎるのではないかと不安を感じる。</p>	<p>公共用水域や地下水、被災影響海域等の放射性物質モニタリング調査、及びアスベスト大気濃度モニタリング調査といった各項目の調査結果の公表回数を新たな指標とする。</p>

目標		発言委員	委員の発言	各部署の対応
5	1	鷺谷委員	<p>・生物多様性の認識状況の数値目標を達成するのは、初等、中等教育で取り上げることが必要で、副読本を作成してインターネットに上げるとか、教育の中に食い込んでいくことを真剣に考えるべきではないか。</p>	<p>教育の中に組み込んでいくことについては、評価書の次期目標等への反映の方向性について以下のように追加。 「多くの子供たちに生物多様性に関心をもってもらえるよう、UNDB-Jが選定した生物多様性の本箱を全国の図書館に設置してもらえるよう働きかける。」</p> <p>また、施策の分析について以下のように追加。 「生物多様性の大切さを理解し、行動に移していくためには、幼少の頃より生き物にふれ、大切さを学ぶ場が必要であることから、関係省庁と連携し、教育方面へのアプローチをする必要がある。」</p>
5	1	百瀬委員	<p>・生物多様性という言葉はもっとわかりやすい言葉にならないか。</p>	<p>これまでも生物多様性を「つながり」と「個性」などわかりやすく伝えられるよう様々な表現を用いて説明をしていますが、生物多様性という言葉を理解し、行動へと移していただけるよう、生物多様性という言葉や概念の普及啓発に一層力を入れていきたい。</p>
5	1	崎田委員	<p>・生物多様性に関して事業者の取組が少しずつ増えてきたとあるので、現状、評価点、課題などをきちんと書き込むと、そこが進のではないか。</p>	<p>・現状、評価点については、評価書の施策の分析について、以下を追記。「社会貢献活動のみならず本業との関連性が高い事業者の取組が増加」</p> <p>・課題については、評価書の施策の分析について、以下を追記。 「一方、規模の小さい事業者ほど事業活動と生物多様性の関係の定量的・定性的な把握や取組の重要性の認識が低</p>

5	2	鷲谷委員	<p>・自然再生協議会の数が伸び悩んでいるのは残念だが、数字を意識して把握し、少しでもよい地域活動になるよう、環境省のできることもあると思う。</p>	<p>環境省としても、協議会の数の向上に向けて関係省庁や地方事務所等とも連携を行い、情報収集、普及啓発を行うとともに、協議会が各地域の自然再生の取組の象徴的な存在となるよう、自然再生専門家会議の意見や協議会の全国会議等を活用し、質の向上も目指していきたい。</p>
5	2	大塚委員	<p>・ナショナル・トラスト関係の指標もつくったほうがいいのではないか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、ナショナル・トラスト関係については、評価書の5-2に平成27年度に公布された地域自然資産法に基づく民間資金を活用した取組について、達成すべき目標等に追加した。今後は地方自治体の自発的な取組を促すための普及啓発を行っていく予定であり、ナショナル・トラスト関連の取組が動き出すのはその次の段階となることから、具体的な数値目標については設定しないこととする。</p>
5	3	藤井委員	<p>・23年度についてニホンジカ・イノシシの生息頭数は把握しているのか。 ・猟師の数が減っては目標の達成は難しいが、その辺はどう考えているのか。</p>	<p>・23年度のニホンジカ・イノシシの生息頭数に関しては、評価書は従前通り。理由は、測定指標の「3 ニホンジカ・イノシシの生息頭数の推定値」の「基準値」の欄に記載済みであるため(実績値の23年度欄は、実績としての数値はないため未記載)。 ・猟師の数が減っていることに関しては、評価書の「次期目標等への反映の方向性」の「【施策】」において、以下のような記述を追加。「・狩猟者を育成して捕獲の担い手を確保するとともに、認定鳥獣捕獲等事業者等の捕獲体制の強化を図る。」</p>
5	3	鷲谷委員	<p>・外来種の対策は数を減らすだけでなく、その影響を低減することが大事で、しかし奄美大島の場合、外来種のマングースが減ると今度はノネコが増えて、希少なほ乳類に対する補食圧が存在するのではないか。新たな問題に遅れず対応する必要がある。ノネコは終生飼養の問題もある。</p>	<p>・ノネコについては、評価書の「目標達成度合いの測定結果」の〈絶滅危惧種の～〉最後に以下を追加。 「・希少野生動植物種への捕食が問題となっているノネコについて、地元自治体等と連携し、捕獲後の収容譲渡体制の構築を進めるとともに、並行してノネコの捕獲を開始した。」</p>

5	3	百瀬委員	<p>・鳥獣害については、害獣を捕獲しすぎて、今度はレッドリストに載ることにならないか。農業者との関係が主なのか、生態系を保持するのが主なのか、はっきりさせたほうがいい気がする。</p>	<p>・鳥獣を捕獲しすぎることがないかに関しては、評価書は従前通り。理由は、鳥獣保護管理法の法目的に鳥獣の保護と管理を位置づけ、個体数を把握しながら科学的な鳥獣の保護・管理を推進しているため。</p> <p>・農業者との関係が主なのか、生態系を保持するのが主なのかという点に関しては、評価書は従前通り。理由は、鳥獣保護管理法においては、生物の多様性の確保だけではなく、農林水産業の健全な発展に寄与することを目的としており、双方の両立を図ることを目的としていることが明らかであるため。</p>
5	3	大塚委員	<p>・マングースだけでなく、ブラックバスなど、ほかにも代表的なものはあると思うので、そういうのも指標に入れていただきたい。</p>	<p>・マングース以外の指標については、評価書は従前通り。理由は以下の通り。国が実施する外来種対策について、法に規定された基本方針に整理された優先順位(生物多様性保全上重要な地域など)に基づき実施している。その考え方に基づき環境省が実施する外来種対策では、マングース対策に当該事業費の多くを継続して充当しているため。</p>
5	6	崎田委員	<p>・八戸市のホテルの宿泊人数を参考指標にしているのは、なじまない気がする。もっと適切なものはないか。</p>	<p>・八戸市の宿泊人数を参考指標としている意図としては、国立公園全体だけを指標とするのではなく、地域レベルの指標も必要と考え設定したものです。本施策の直近の効果を図るため、三陸復興国立公園の編入及びみちのく潮風トレイルの開通がいち早く進んでいた八戸市に関する指標として宿泊人数を採用したものです。</p> <p>・委員のご指摘も踏まえ、今後は集団施設地区(国立公園の利用施設を一体的に整備している利用拠点)の利用者数の動向を地域レベルの測定指標として代えて行きたいと思えます。</p>

目標		発言委員	委員の発言	各部局の対応
7	2	藤井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・水俣病資料館の来館者は民間の考証館も含めると質と数も違ってくると思うので、そこも考慮してはどうか。 ・「視察者受入れが一巡している」とあるが、水俣条約、水銀条約後、自分も含め新たな視点で訪れている人もいるので、「一巡した」という言い方は適切ではない気がする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水俣病発生地域再生・融和推進事業において、考証館に対する事業を実施していないことから、実施施策の成果を評価する項目としては水俣病資料館の来館者数を用いたいと考える。 ・「一巡した」という表現については、御指摘のとおり適切ではないため削除することとしたい。
7	2	崎田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省の施策として、水俣市の新しいまちづくりを支援しているのので、その評価も残っていてよかったのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 御指摘を受け、水俣市観光客入込数を再度記載することとしたい。

目標		発言委員	委員の発言	各部局の対応
8	1	崎田委員	・都道府県が環境教育・環境学習の計画を明確に位置づけたのはどのくらいあるかとか、学習拠点をどのくらい整備したとか、そういう基本的な数字がないので、御検討いただければと思う。	御指摘を踏まえ、測定指標の追加を検討する。
8	1	井村委員	・環境産業の市場規模のデータは毎年継続的にやっていただきたいが、その内容、転移まできちんとやれるよう、体制をよく考えていただきたい。毎年予算確保することも、内容の検討も含めて大事である。	環境と経済が共に向上・発展する経済社会の形成や、環境産業分野の振興等に資するため、最新の環境産業の動向等を踏まえ、推計分野の検討を行った上で、環境産業の市場規模等の把握を継続的に実施するとともに、本事業で実施した成果を社会で広く活用できるように分かり易い情報を提供するウェブサイトの構築など、情報提供の方法の改善や体制の充実を図ってまいりたい。

目標		発言委員	委員の発言	各部局の対応
10	3	崎田委員	<p>・指標達成がすべて「○」になっているが、まだまだ頑張らなきゃいけない分野であるというニュアンスを出すために、一緒にどうやって指標をつくっていったらいいか、考えていただければと思う。</p>	<p>御指摘を受け、施策目標の全体的な達成度を測定する指標として、より適切な項立て等を検討する必要があることを記載することとしたい。</p>